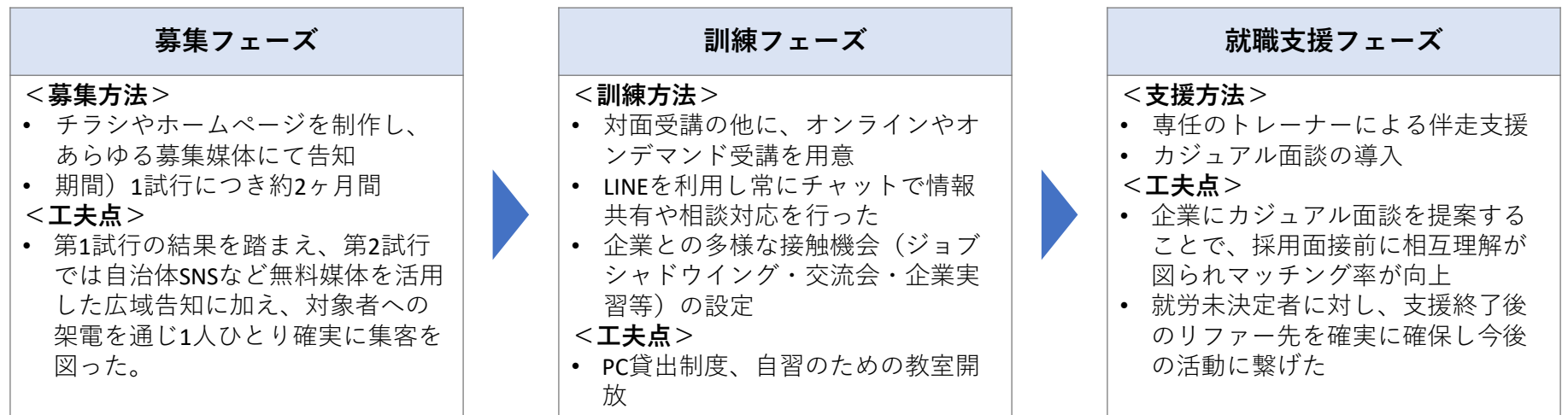


〈訓練パッケージの全体像〉

受講対象者の属性		周囲の環境（子育て・介護等）や自身の課題（スキル・キャリア・障害等）によって働きづらさがあり、長期離職中または離転職を繰り返している
受講対象者が直面している課題		自身の課題…コミュニケーションスキル、自己肯定感が低い、メンタル不調、障害 等 周囲の環境…子育て・家族の介護 等
訓練概要		一人ひとりの特性や課題を踏まえ、個別に異なる訓練カリキュラムを提供した
訓練の新規性	既存訓練の課題	個々のスキルに差がある状態での集合訓練は、確実なスキルの習得に繋がりにくい
	本訓練での試み	プロファイリングシステムを構築し、各受講者に対しシステムを通じて個人の意見に偏らない個別の訓練カリキュラムを提供した
カリキュラム		- 社会人基礎スキル向上プログラム（27h） コミュニケーション、ビジネスマナー、チームワーク、電話応対基礎、感情コントロール 他 - 専門スキル習得プログラム（215h） オフィス、製造・物流、医療・介護、IT、販売・サービス 他 - 就職活動スキル向上プログラム（24h） 就活・自己理解・棚卸、キャリアプラン、業界研究、職種研究 他

〈訓練パッケージの流れ〉



〈試行結果〉

試行時期	2024年1月～2025年3月	試行エリア	静岡県内全域
受講者数等	受講定員：60名 受講者数：55名 修了者数：38名		
就職状況	正規就職者数：7名 非正規就職者数：9名		
結果に対する評価			
本人の特性が影響する働きづらさのある受講者であっても、自己理解を深め自身の可能な業務を明確にした上で企業とのコミュニケーションを重ねることで、企業理解が進み正社員としての就労が決定したケースも見受けられた。			
効果が得られた施策とその要因			
・ 採用面接の前段階として設定した“カジュアル面談”は、受講者と企業の相互理解を深め採用可能性を向上させた。面談の場には担当トレーナーが仲介し双方の橋渡し役を担うことでコミュニケーションが深まりマッチング率の向上に寄与した。			

〈今後の訓練手法活用に向けて〉

今後の課題及び改善策
・ 募集に関する課題と改善策) 対象者の特性として潜在層に働きかける必要があり多くの募集費用を要した。職業訓練の一環として実施するのであればハローワークの協力は最低限必須である。 ・ 訓練に関する課題と改善策) 受講方法として対面・オンライン・オンデマンドの選択制としたが、以下のような課題が浮き彫りとなった。 「対面受講」...通所手当の支給が難しかったことで教室の近隣に在住する対象者に受講が限られてしまった。 →受講手当の支給 「オンライン受講」...特に実技を伴う講義において受講者の進捗状況が把握しづらい。 →対象科目を対面受講に限定 「オンデマンド受講」...オンライン受講の課題に加え離脱者が多い傾向にあった。 →理解度テストを多用するなど進捗管理の徹底 ・ 就職支援に関する課題と改善策 受講者の働きづらさの要因が成育歴等に起因する場合、定められた3ヶ月間では解決できない場合があった。 →適切な支援機関や専門家との定期的なケース会議の場の設定、周囲の関係機関の積極的な関わりが重要